

## 令和4年度 第1回羽黒地域振興懇談会 会議概要

- 1 日 時 令和4年8月5日（金）午後3時00分～午後4時45分
- 2 場 所 羽黒庁舎 二階会議室
- 3 出席者 委員 五十嵐満委員、勝木正人委員、小林馨委員、堀誠委員、榎本トヨ委員、鈴木静香委員、百瀬清昭委員、山本興治委員、小南孝子委員、三浦美津子委員  
庁舎 支所長 秋葉敏郎、総務企画課長 観世安司、市民福祉課長 成沢結花、産業建設課長 上林喜博、総務企画課長補佐 成澤紀美  
総務企画課主査 丸山浩二、総務企画課主事 三浦耀介  
産業建設課長補佐 金内房夫  
本所 地域振興課地域振興専門員 齋藤真一
- 4 会議次第
  1. 開 会
  2. 会長あいさつ 百瀬清昭会長
  3. 新委員紹介
  4. 意見交換
    - (1) 羽黒地域市営バス利用活性化について
    - (2) やまぶし温泉ゆぽか利用活性化について
  5. その他
  6. 閉 会
- 5 会議資料
  - ・【資料1】羽黒地域市営バス利用活性化について
  - ・【資料2】やまぶし温泉ゆぽか利用活性化について
  - ・【その他】マイナンバーカード申請について
- 6 意見交換会の要旨
  - (1) 羽黒地域市営バス利用活性化について（羽黒庁舎総務企画課主査 説明）
  - (2) やまぶし温泉ゆぽか利用活性化について（羽黒庁舎産業建設課長補佐 説明）

### （1）羽黒地域市営バスについて 委員より質問・意見

#### 【委員】

・バスに一度も乗ったことが無く、実態はこの資料で初めてお勉強させていただきました。知り合いには、庄内交通のバスがなくなったため、市営バスを利用してゆぽかから乗って市内に行き、またゆぽ

かまで乗って帰るとい人もいます。「一回利用しないか」と誘いを受けましたが、まだ乗っていません。申し訳ありませんが、市営バスについて問題化して考えたこともありません。時間帯をみると高校生とかは学校に間に合いませんよね。

**【回答：丸山主査】**

・利用者の多くは高齢者の方です。主に自ら運転免許をお持ちでない方、家族送迎が難しい方とか高齢者の方が中心です。

・通学利用には路線が2路線、隔日交代運行ということもあり、常時通学に利用するということが難しい現状です。又、運行経路も徐々に経由地が増えて、今現在乗車時間が1時間とか1時間弱のため、始発から長い乗車時間になっておりまして、早く目的地に行きたいというニーズには即していません。

**【委員】**

・自分が高校二年生の時に庄内交通が廃止になり、当時は親が子どもを送っていくことが難しい時代だったので、何とか町にお願いして朝と夜だけでもいいからとお願いしたというのが始まりだったと思います。当時は中学校・高校に通っている生徒もかなりおりましたので、それなりの人数が乗っていた記憶があります。その頃は通勤や通学がメインでお年寄りあまり乗らなかったイメージです。

・最近では、親が鶴岡に働きに行っている関係上、親と一緒に通勤通学を行うことが多くなったと聞いています。私も経費削減のため自分の子どもの送り迎えをしていました。

・今後、少子高齢化の影響で集落においても高齢夫婦世帯が多くなります。免許返納せざる負えない時期がきたとき、バスがないと病院・買い物などが困難になります。市営バス運行の維持については利用者を増やさなければならぬところではあると思いますが、5年・10年を見据えた改正を考えたいと思います。

**【委員】**

・平成26年7月ポイントカード制度導入とありますが、今もありますか？

**【回答：羽黒庁舎 丸山主査】**

・ポイントカードは今もあります。ごみ袋やゆぼかの無料券を配布しています。

**【委員】**

・制度を知らない方が多いと思うので、どんどんPRして「こういう条件があるんだよ」というところをつなげていけば、ゆぼかに来るお客さんも利用すると思います。

**【百瀬 会長】**

・上野新田の人はほとんど乗りませんが、田代の人が、歩いてきて利用しています。「家族がいないから、買い物や病院に行けないから、バスに乗るんだ。」と言っていました。

**【委員】**

・私はまだ免許の継続はできていますが、10年後のことを見据えて、中島を通るようにしてもらえた

らもっと利用する人が増えると思います。

【委員】

・10 ページの参考資料に、各地域の運行形態がかいてありますが、4条・21条・79条の違いはなんですか。

【回答：地域振興課 齋藤専門員】

・4条・21条・79条というのは、東北運輸局による許可の種類とお考えいただければよろしいかと思ひます。4条というのは、一般乗り合い、いわゆるバスと同じような許可。21条は実証運行です。79条というのは、市町村自家用有償運送、いわゆる市営バスの許可といったかたちになっています。

・経過としまして、平成24年12月羽黒地域市営バス利用拡大協議会を開いています。きっかけが平成23年度の鶴岡市行財政改革の対象に羽黒地域市営バスがあがり、その当時の利用者は1,100人でした。市の目標値として設定されたのが1,300人で、その数値を切ったときは運行形態等様々な見直しを図ることが必要とされていきました。令和3年度1,302人はその時の数字に近づいてきています。

・令和2年・3年については、バスに限らず電車・飛行機も含め、公共交通全体に共通しての話ですが、例えば飛行機は令和元年約42万人庄内空港歴代2位を記録しましたが、令和3年には約10万人、当時の4分の1まで落ち込んでいます。JRについては、約49億円という数字が非常に大きく出たと思ひますが、コロナによる利用の減といったところが大きいです。庄内交通のバスも市営バスもそうですが、乗り合わせていくことに抵抗感を感じる方がいらっしゃるというふうには感じています。

【委員】

・私も齋藤眞一さんに言われて乗ったことがあります。鶴岡の方に行き始め、病院とショッピングセンターをいれてから、少し回復したと思ひます。私が庄内交通のバスに乗るのは最終手前のバスです。鶴岡に行くのは、飲みに行くときくらいしかバスは利用しなかったけれど、二人くらいしか乗っていませんでした。

・ゆぽかを救うためのアイデアでもあるのですが、増便すればいいのではないかと思ひています。ゆぽかに入って、鶴岡に帰っていく。ゆぽかで飲んで集落に帰っていく。ゆぽかの終了時間のちょっと前にバスを出すようにすれば、両方の収益が上がるというふうには思ひます。ゆぽかのためにもバスのために利益は上がると思ひます。

【委員】

・私の周りでの利用者はあまりいません。バス路線といっても家からバス停までに行くのが容易でないのが実状です。バスに乗るよりもタクシーに乗る方が楽だ、簡単だという声の方が多いです。他のデマンドタクシーの利用方法がよくわかりませんが、自分の行きたいところに行きたい時間に行けるのであれば、その方が利用しやすいのではないかと思ひます。

・何かないと動けないという状況になればこういったものに頼るしかないと思ひますが、バス路線を残すにはどういう活動をしたらいいかという考えも重要ですが、利用したい人のためにはどうあるべきか、バスだけでなくどういう方法が良いのかということも考えていかなければならないと思ひます。

### 【委員】

・私もにこにこバスを利用したことはありません。今までの意見の中で感じたことが、今少なくなってきたからどうしていくか、増やそうという話だと思いますが、令和3年はコロナで利用は少ないため、令和4年の6月末時点と比較するのであれば、令和元年の6月末時点と比較したほうが良いと思います。令和3年と比べている数字では参考にならないのかと思います。

・他のところでいろいろ試験的にやってるようですが、いいことは羽黒にも取り入れて、にこにこバスだけではなく地域交通を確保するような方法を取りながらやってもいいのではないかと。大切な交通の確保ですから、みんな免許返納すれば、みんな利用しますという状況をずっと続けるよう、みんなで頑張っていくべきではないかと思っています。

### 【百瀬 会長】

・委員をやっていた頃は、高校生の利便性を高めるために時間に配慮するとか、増便、毎日運行などいろんなことを議論したような記憶があります。高齢者の免許返納に対して、しっかりフォローしていくということもあったと思います。今はどんな感じでやっていますか。

・高校生に対する配慮についても議論があったのですがどうなりましたか。

### 【回答：地域振興課 齋藤専門員】

・令和3年12月のデータですが、鶴岡市の75歳以上の方の免許保有率が約40%。昨年度の免許返納者は約600人。市では庄内交通と提携しながらゴールドパス（70歳以上購入可）というものに取り組んでいます。月に2,550円で乗り放題は庄内交通路線ならどこにでも酒田までも乗れます。その他タクシー・バスの回数券5,000円分の支援もしています。ゴールドパスについては、免許返納した方が買えますので、自家用車の維持費が軽自動車でも毎月約1万8,000円と損保ジャパンで算出しております、それに比べて約10分の1位でバス等が毎月乗り放題にしています。

・にこにこバスについてもゴールドパスが使える、乗り継いだうえで庄内交通のバスも使えるというふうな仕組みにしております。ぜひご利用いただければと思います。

・高校生について、現在遠隔地ということで、朝日地域・温海地域について、高校生と対象に月5,000円・年60,000円上限として、その上限を超えた部分について市の方で支援しています。遠距離・遠隔地の高校生の支援です。これの拡大を求める声も多くあります。それについては今後も検討していきたいと考えています。

### 【百瀬 会長】

・にこにこバスのために利用しようというふうに、自分たちの生活の利便性を高めるために使うという視点だと思います。

・鶴岡市内ではデマンド型からスクールバス利用まで色々やっていますが、それぞれメリット・デメリットをしっかりと検証していただいて、にこにこバス方式がどのくらい投資効果を生むのかしっかりと検証していただき、5年後10年後の超高齢化社会に向かって今の検証も含め行っていただきたい。

・特に高校生に対する配慮。今のところ親たちが送り迎えをやっていますが、これがいいのかどうか、非常に私も疑問に感じます。その方法も少し工夫が必要かなと感じています。

【委員】

- ・何回も何回も繰り返し言って周りの人にもっとアピールするべきです。河原集落で行っている、乗った人に少し助成するというのもいいかなと思います。
- ・10年後くらいに車に乗れなくなったときバスがあればいいのにと必ず出てくるわけなので、もう少しみんなの意識を変えさせるようにするためにやっぱりもっとPRした方がいいかなと思います。

【委員】

- ・人口減少の中で、路線バスの維持ってというのは、全国の地方路線を運行している自治体の課題だと思います。先ほどお聞きした目標値 1,300 人切らないようにするための一つの方法として、庄内交通と競合する羽黒街道には乗り入れられないのなら、農協の周辺・体育館を経由してもらおうと ATM や庁舎への用足しができ高齢者のにとっては便利なのでぜひ検討をお願いします。

---

(2) ゆぽかについて 委員より質問・意見

---

【百瀬 会長】

- ・日帰り温泉施設「ゆ〜Town」「ぽっぽの湯」「ぼんぼ」と他にも3つあるが、コロナと重なったことで、どこも非常に容易でない中での運営だと思います。その中でもゆぽかは割と良い状況にずっと推移してきたと思っています。さらに伸びていくためにはどうしたらいいかが大事だと思います。

【委員】

- ・コロナになって集りも少なくなってゆぽかもだいぶ苦労したと思います。With コロナで利用が増える方法を考える必要があります。
- ・以前、仕事上でゆぽかに関わったことがあります。他のところと違うのは、入浴者数というより、売店・食堂・宴会等の部門で収益を得て、入浴者数が減少してもそれを補っていた状況でした。今も変わらないと思います。
- ・リピーターを確保する、新たな人を増やす、投資っていうのも入浴客にとっては必要かもしれませんが、ゆぽかは頑張っている方だと思います。

【委員】

- ・ハードとソフトがありますが、ハード面で休むのは駄目。機械が故障して休むなんて、機械やポンプを二つ用意しておけば回避できることで以前はそうしていたと聞いています。レジオネラ菌での休館も信用を落とすため、ハード面はきっちり管理していただきたい。ソフト面についても委員が言った通り、宴会が好評だからそれは維持していくべきだと思います。
- ・コインランドリー作る案が以前あったと聞いたことがある。おもしろい試みだと思う。

【委員】

- ・私も結構使っているつもりだけど、コロナの影響もあって減っていますね。でも他の施設と比べるとゆぽかは羽黒以外からも来ています。

・綺麗だし、ゆっくりできるし、露天風呂があるのは売りだと思いますが、委員の言ったように施設面で何かあるとやっぱり信用を失います。町内のスポーツイベントや子ども会のイベントなどのついでにゆぽかで汗を流すっていうような宣伝をしていくのも人寄せにはなると思います。

**【委員】**

・ゆぽかの駐車場で、朝市・夕市で季節の野菜を売るのはどうだろう。風呂に入る、朝食を食べにくる、近隣の野菜とかを買って帰るといったようなことで、朝市誘致のスペースを作るとするのはどんなものか。

**【委員】**

・昔、日曜 7 時から 9 時位まで朝市を行って野菜とか結構売れましたが、施設内に常設するようになり利用者が減りました。月 1 回とか 2 ヶ月に 1 回というイベント的にするのは良いかと思います。  
・月 1 回健康講話みたいなことやっているようだけれど、私みたいになんでもかんでもやっている人は、次何あるか分かるけれど、普通の人は知りません。  
・講話とかイベントに行くと、大体割引券とか入浴券貰います。入浴券は良いけど、その時すぐ入るわけでもないし、お昼頃にイベント終わるので、そこでご飯食べて帰ってくれば良いかなと思うけれど、そうでない人もいます。例えば、入浴券とお食事券（100 円引き）を今日なら使えますと言って配るのはどうでしょう。

**【委員】**

・我が家では年寄りがお盆やお正月に来た時、お土産のお返しにゆぽかの回数券（10 枚券）を渡しています。他のものを貰うより良いと大変喜ばれます。

**【委員】**

・食堂について、小盛メニューがラーメンと山伏ラーメンの二つしかなく、高齢者はラーメンをたべるとおなかいっぱいになります。小どんぶりに何とかのセットって感じのものや、半分くらいの小どんぶりのメニューを増やしてもらおうと食べやすいかなと思います。からあげもテイクアウトできるようになっているようですが、なかなか知らない人が多くて、そういうのもちゃんと PR した方がいかなと思います。

**【百瀬 会長】**

・今頑張っている他の温泉地域は、食堂部門が足を引っ張っていたということがあつたようです。食堂部門が好評のゆぽかは、強みとしてしっかりサービスを充実するということはとても大事です。

**【委員】**

・取り組み検討案とありますが、ホームページのリニューアルとあります。どこでやっているのですか。

【回答：羽黒庁舎 金内補佐】

・ゆぽかで作成していますが見にくいとの意見もあります。今後検討したいというところです。こういったところから発信していかないと知らない人が結構いらっしゃるのです。

【回答：羽黒庁舎 秋葉支所長】

・今までは、職員の手づくりでパソコン向けホームページしかなかった。スマホ対応を片手間でやっているが、うまく情報更新がされない。ある程度、外部の力を入れなければならないという話はしています。

【委員】

・ホームページが良いのか悪いのか分からないが、フェイスブックとかツイッターを活用すれば、若者たちが見てゆぽかに来たりすると思います。スマホを見せると割引になったりするのもいいのでは。リニューアルも含めて SNS の活用みたいなのも考えてください。

【委員】

・SNS は活用した方がいいと思います。若い人たちは、インスタグラムやフェイスブックで、今日のイベントがありますよというチラシみたいに拡散していくことは、とてもいい案だと思います。

【百瀬 会長】

・最近は動画入れたやつとか、ドローンで空撮したやつとかかなり進んでいますね。ぜひそういうレベルの高いものを我々はちょっとあれだけど、若い人には必須だと思います。

【委員】

・小学校とか学生向けに温泉を生かした温泉化学みたいな教室があれば、小学生は自由研究もあるので、親子でゆぽかのイベントに参加すると思います。そこでゆぽかって楽しいなと思えば、きっとまた「ゆぽかに行きたいな」「山伏ラーメンもう一回食べたいな」という形で、またゆぽかへ足を運ぶと思います。

【百瀬 会長】

・ぼんぼの塩は製品化をしているし、商品化については先例があるわけだから、ぜひ、ゆぽかさんの塩も製品化してそこを目指してもいいんじゃないですか。

【回答：羽黒庁舎 秋葉支所長】

・作る人が高齢で、最近身体を壊して塩づくりをやめているらしいので数がありません。

【委員】

・ゆぽかの目的は、市民の健康を維持するとかもあるわけでしょう。市民の健康、高齢者の老化対策とか、健康に特化した講演会を周期的にお願いしたい。

・廊下のギャラリーについてもいろんな分野のものを展示した方が、利用者増につながるのでは。

**【百瀬 会長】**

- ・廊下のところ、ちょっと展示しているけど。お客さんに来てもらうためにはそこをもっと充実させるって方法もありますよね。もっと家族向け、子ども、家族向けの割引、サービスを充実してもいい。子どもが来れば必ず親ついてくるから。
- ・非常に前向きな分野、健康と食だから、どんどん進めて羽黒の活性化につなげていければいい。

**【委員】**

- ・宴会場のことですが、やはり、年取ってくると畳に座れないんだよね。椅子と机に変えていただくと高齢者の方が利用しやすい。そうしていただくと、宴会だけでなく昼に会議や講演会でもゆぽかを使うようになると思います。

**【委員】**

- ・私も農協の方でもかなり使っていたという経験があります。今現在、県・市の指導で、感染者が多くなると飲食を伴う宴席については禁止しています。ということは今までゆぽかを使わせてもらってきたわけですから、どうしても多人数の宴会は敬遠されているのが現状です。農協の中では今、許しているのは4～5人程度の小宴会で、感染対策をしっかりとしている店舗では開催してもいいと許可を出しています。これは行政サイドでも同じはずです。今ゆぽかがこういうふうに厳しい現状だというのはやむを得ないと思います。株式会社であって、我々の方も出資している部分もありますし、何とか利用したいという気持ちは十分あるのですが、行政サイドの指導的な部分を少し整理してもらわないと、利用ができないっていう部分があります。コロナとは長く付き合っていかなければならない部分があるので、県や市で考え方を少し整理して、多人数でもできるような対応、そういう努力ができないかを模索していくべきではないかと思っています。重症化がなくなっているということを考えれば、国の補助を少し入れるみたいですが、インフルエンザと同じぐらいのランクにもっていくとか、そういうことをしない限りやはり経済活性化していかないだろうと思っていますその辺を行政的な部分では、検討をお願いしたいというふうに思っています。

**【回答：羽黒庁舎 秋葉支所長】**

- ・一応市では、今県も含めて、基本的に宴会禁止していません。人数制限もしていません。

**【委員】**

- ・農協はしています。そういう事例がもう40・50件位でているので。職員の1割が感染していると考えたら、これはある程度お客さんと接する部分が多い事などもありますので、規制をしているという状況です。市が大勢での宴会禁止をしていないのであれば、ぜひゆぽかで宴会を率先して行ってください。そのあと我々農協もしますのでお願いしたいと思います。

**【回答:羽黒庁舎 秋葉支所長】**

- ・バスもゆぽかも非常に身近な問題で、やはりコロナの影響があり、その後コロナ前まで戻っていないような状況で、いつになったら戻るのだろうというような状況で、ぜひみなさんから身近なご意見をいただければと思います。本当に今日はありがとうございました。

【委員】

・何年か前に作りましたが、そのころポイントはなかったので、あとでポイントどうしますかと言われてましたがわからないのでいいですと言いました。今になってみれば、カードは持っているけど、どうしたらいいでしょうか。

【回答：羽黒庁舎 秋葉支所長】

・9月末まで申請をすれば2万ポイントがもらえます。9月末までを強化月間としておりますので何か会合があるとき、5人以上の会合であれば出張申請に赴きますのでよろしく願います。

【委員】

・空き家が最近多くなり集落でも問題になりそうな気配があるので、いろんな対策をとっていかなければ駄目だとおもうのですが、どの段階で行政サイドに話をすればいいのかわかりません。

【回答：丸山 主査】

・基本的には空き家の所有者の方が、その解決をするというのが大前提です。例えば、その空き家の所有者は、集落の方にしてみれば、何代か前までは分かるけれど、今の所有者が分からない。そういったところについては、市に言って、所有者を探すということになります。所有者からの対応策が間に合わない、今差し迫って緊急、危険な状態だとすれば、市の方が応急措置で最低限度の、例えば屋根のトタンが飛散しそうだという事であれば、応急措置をすると条例上では定めています。解体とか根本的な原因解決だと、行政代執行とかすぐに話としては上がってくるかもしれないですが、鶴岡市で行政代執行した例は「雷や」1件だけです。よほど周囲への危険性とか事情がないと簡単にはできません。

・「危険空き家解体補助事業」ということで所有者がいるけれど経済的に難しいという方に関しては、解体補助というものがあります。そういった補助制度を含めて集落の方から、心配だっというご相談があればご説明させていただければと思います。

【百瀬 会長】

・所有者がいないとダメなんですね。うちの方もいろいろ検討していますが、所有者がはっきりして、その力がない場合に市の方から応援もらおうということですね。市の方で空き家の現地調査し、確かABCのランク付けをしたんですね。まだ活用できるような空き家を情報提供していただければと感じているところです。